出産の感動つなぎ 幸運の腹帯 21年ぶり戻る

宇都宮の看護師・安納さん

宇都宮市飯田町、看護師安納澄子さん（58）がかつて妊娠中に大きくなったおなかを支えるために使った腹帯が、安産を呼ぶ〝幸運の腹帯〟として21人の妊婦を守り、21年ぶりに安納さんの元に戻ってきた。「戻ってくるとは思わなかった。たくさんの名前が書かれていたのを見て、出産の感動をこれだけの人が味わってくれたんだと感慨深くなった」と安納さん。今も「使いたい」と待つ女性がおり、腹帯はこれからも妊婦の幸せを紡いでいく。（外山雅子）

親子の名前がずらりと書かれた腹帯を持つ最初の持ち主の安納さん（左）と臼井さん＝11月、宇都宮市下荒針町の鷲谷病院

「使いたい」今も5人待ち

安納さんは結婚してから11年間子宝に恵まれず、念願かなっての妊娠だった。戌の日の安産祈願のお参り用にさらし1反の腹帯を買い、大きくなったおなかを腹帯で支えて長男の康太郎さん（21）を出産した。

「私と一緒に子どもの命を守ってもらった腹帯を捨てることはできない。誰かに使ってもらえたら」と自身と子どもの名前、出産した日時を書き、友人に渡したという。

腹帯のことをすっかり忘れていた昨年、知人から「安納さんの名前が書いてある腹帯が（妊婦の間で）回っているよ」と聞いた。同じ病院で働く砥上町、看護師臼井栄美さん（42）が妊娠したため、安産のおまじないとして臼井さんに使ってもらおうと、腹帯は知人を介して再び安納さんの手に。21年ぶりに目にした腹帯には、自分と友人の名前のほか、20組の知らない親子の名前がずらりと書かれていた。

23人目として腹帯を使った臼井さんは7月に無事に長女ななみちゃんを出産。

臼井さんは「夜勤もあり、仕事中に使っていた。大勢の人が使っているから柔らかくて、他の腹帯とは使い心地が違う。この腹帯のおかげで無事に出産できた」と話す。

さらに1組増え、24組の母親と子どもの名前が腹帯に記された。今も5人の女性が〝幸運の腹帯〟が届くのを待っているという。安納さんは「息子は父の後を継いで、農業を頑張っている。息子の子どもが産まれる時、お嫁さんに巻いてもらうのが夢」と笑顔を見せた。

笠間にもグランドキャニオン

稲田石 採石場ツアー人気

茨城県笠間市で、特産の白い御影石「稲田石」の採石場を巡るガイドツアーが好評だ。重機が採掘する現場を間近で見ることができ、真っ白な岩肌が階段状に連なる光景は「隠れた絶景」「茨城のグランドキャニオン」と、会員制交流サイト（SNS）でも話題に。ツアーの担当者は「壮大なスケールをぜひ体感して」と呼び掛けている。

12月の晴れた平日。切り立つ白い岩壁から30㍍下の水面を家族連れがのぞき込んでいた。6年前に採掘をやめたすり鉢状の跡地に、湧き水や雨水がたまってできた〝地図にない湖〟だ。

「石に含まれるケイ素の影響で魚は確認されていませんが、外敵がいないのでカモの親子がすんでいるんですよ」。採石加工会社「想石」のガイド市田洋三さん（43）が拡声器で説明する。

稲田石は目が均質で硬く、大きな塊で採ることができ「白い貴婦人」との別名を持つ。1889（明治22）年に東西約8㌔、南北約6㌔に広がる笠間市の石切山脈一帯で本格的な採掘が始まって以降、東京・日本橋や国会議事堂、神社仏閣の建材として重宝され、近年ではJR東京駅前の石畳にも用いられた。

3年前に団体バスを受け入れたのをきっかけにガイドツアーを始め、客は毎年2万人以上。今年は新型コロナウイルスの影響で4カ月間休止し、11月から新たに1日4回、約1時間のツアーを始めた。年内は予約でいっぱいだという。

稲田石の地盤でろ過された上質な地下水を使った日本酒造りが盛んなことや、風化した土壌が笠間焼の陶土になることも紹介。夫と訪れた茨城県茨城町のパート初田成美さん（59）は「石が日本酒造りにも役立っていると知って驚いた。想像が広がって楽しかった」と喜んだ。

ツアー客に「絶景ですね」と言われるまで、見慣れた景色の魅力に気付かなかったという市田さん。「歴史的建造物にも使われた稲田石の魅力を、多くの人に知ってもらえたら」と語った。

「稲田石」の採石場を巡るガイドツアー＝1日、茨城県笠間市の石切山脈

鈴木君（北押原小6年）初代栄冠

プログラミング県大会

鈴木汰芽君

プログラムで制作した作品を競う「TKCとちぎプログラミングアワード 全国選抜小学生プログラミング大会栃木県大会」（下野新聞社など主催）の最終審査会が12日、宇都宮市駒生1丁目のとちぎ青少年センターで開かれた。書類審査を通過した8組が、独自の発想に基づいた作品についてプレゼンテーションした。

大会は2020年から必修化されたプログラミング教育の理解促進などを目的に初めて開催。「もっと好きになる わたしのまち」をテーマにアプリなどの作品やアイデアを募集した。

最終審査は出場者が作品を目指すまちづくり推進協議会」などが福田富一知事から表彰を受けた。

本年度は全体で11団体が受賞した。同協議会は小山市やJAおやまなどで組織。健康機能性があるという同市特産のハトムギの普及や消費拡大活動が評価された。

この日は食育推進啓発事業絵画・ポスターコンクールの表彰式も行われ、最優秀賞の鹿沼市北押原小6年の大貫夏芽さんら15人が表彰された。JA共済連栃木は県にエコバッグなど食育・地産地消PR資材計1万7850点を寄贈し、福田知事から感謝状が贈られた。

初開催された「TKCとちぎプログラミングアワード」＝12日午後、宇都宮市駒生1丁目

銀河戦最年少 藤井二冠がV

将棋の藤井聡太二冠（18）は、12日に放送されたテレビ棋戦の第28期銀河戦決勝で、元竜王の糸谷哲郎八段（32）を破り、同棋戦最年少の18歳2カ月（対局日は10月15日）で優勝を飾った。タイトル戦以外の一般棋戦での優勝は朝日杯オープン戦2回、新人王戦1回を合わせて4回目。

また一つ栄冠を手にした高校生プロは「銀河戦の決勝は初めてで緊張感があったが、落ち着いて指せた。結果を出せてうれしく思っている。優勝を機により一層、精進していきたい」と話した。

これまで、銀河戦で最も若い優勝は2005年、渡辺明三冠（36）の21歳4カ月。

ハトムギ普及で地産地消夢大賞

小山の推進協

県内で地産地消活動に取り組む優良団体を表彰する「とちぎ地産地消夢大賞」などの表彰式が12日、県庁で行われた。最高賞の夢大賞に選ばれた小山市の「はとむぎで健康長寿100歳

福田知事から表彰を受ける「夢大賞」を受賞した小山市の推進協議会＝12日午前、県庁

談話室

○…日光市山内の小杉放菴記念日光美術館で12日、とちぎ未来大使で同市出身のピアニスト大嶋浩美さんと、兵庫県出身のマリンバ奏者岩見玲奈さんによるリサイタルが開かれた。

○…新型コロナウイルスの影響で、本格的な演奏は本年度初めてという大嶋さん。「久々にお客さんの前で演奏できて楽しかった。改めて生の響きを大切にしたいと思った」と話した。

県内の交通事故 11日

発生		10件
	本年累計	3,697件
	前年比	−614
死亡者		0人
	本年累計	54人
	前年比	−24
負傷者		12人
	本年累計	4人
	前年比	374

あんずちゃん

田中しょう

≪7071≫